

(10)九州



九州地域では、景気は緩やかに回復しつつある。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費は緩やかに増加している。
- ・ 雇用情勢は改善の動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(_は上方に変更、 _は下方に変更)

前回調査からの主要変更点

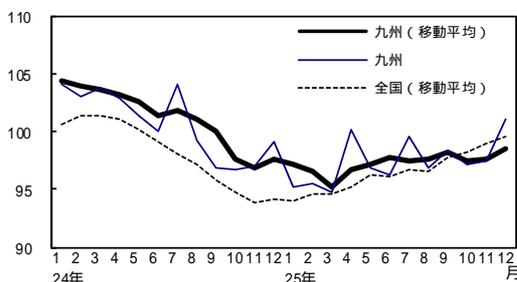
	前回(平成25年11月)	今回(平成26年2月)	
景況判断	持ち直し	緩やかに回復しつつある	
鉱工業生産	持ち直し	緩やかに増加	
個人消費	持ち直し	緩やかに増加	
住宅建設	大幅に増加	増加	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。

10~12月期には、輸送機械は、一部車種の北米移管やモデルチェンジに合わせた生産調整により低調だったこと等から減少した。電子部品・デバイスは、海外向けのスマートフォン用の部品が好調だったこと等から増加した。はん用・生産用・業務用機械は、アジア向けのフラットパネルディスプレイ製造装置等が好調だったこと等から増加した。食料品は、清涼飲料等で減少した。化学・石油石炭製品は、硝酸やパラキシレン等で増加した。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7~9 月期	10~12 月期	10月	11月	12月
輸送機械	24.5	1.4	7.0	2.2	3.6	1.7
電子部品・デバイス	12.3	11.0	12.2	0.0	6.1	2.1
はん用・生産用・業務用機械	11.2	7.2	7.0	1.4	5.3	7.8
食料品	9.6	3.7	0.8	0.5	2.9	1.2
化学・石油石炭製品	8.3	8.9	1.0	1.9	1.3	2.3
鉱工業	100.0	0.6	0.2	1.2	0.2	3.7

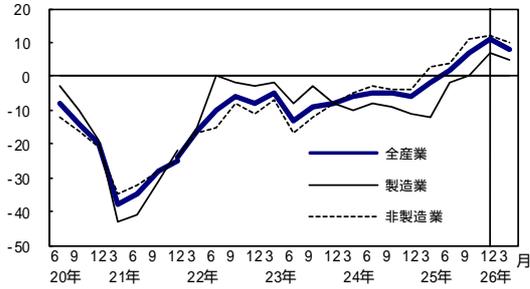
(備考) 1. 22年=100、季節調整値。九州の最新月は速報値。
2. 全国及び九州の太線は後方3か月移動平均。

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 10~12月期、12月は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ拡大している。

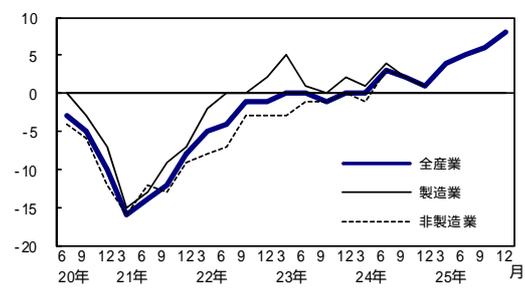
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



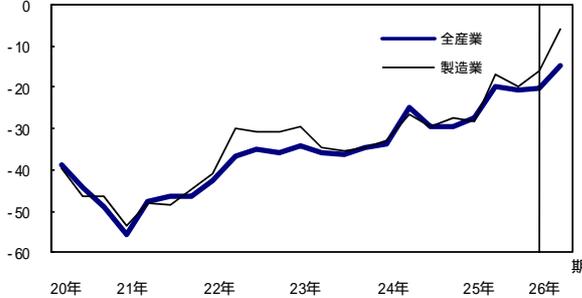
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。26年3月は予測。21年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。21年12月は新・旧基準を併記。25年3月から製造業・非製造業は非公表となっている。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



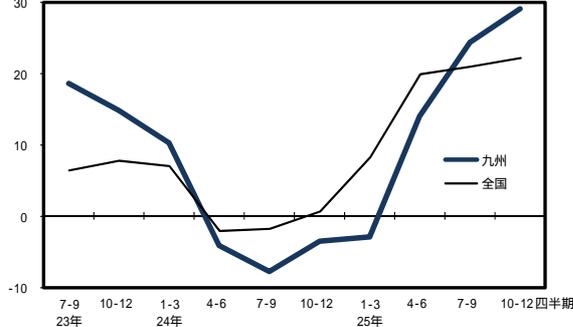
(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。26年 期は見通し。九州(含む沖縄)地区のD I。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

「消費税増税前の駆け込み需要が増えている。売上は前年比120%程度と増えた。1件当たりの受注金額は増えていないが、受注件数が増えている(家具製造業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に増加している。

(%) 民間非居住用建設工事費(前年同期比)の推移



企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

(前年度比、%)

	24年度実績	25年度価
全産業	2.9	24.0(0.6)
製造業	0.7	1.8(1.6)
非製造業	4.0	35.0(1.5)

(備考) 1.()は前回(9月)調査比修正率。

2.リース会社対応ベース。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに増加している。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

10月は前月比1.3%減、11月は同0.9%増、12月は同2.1%増となった。

大型小売店販売額

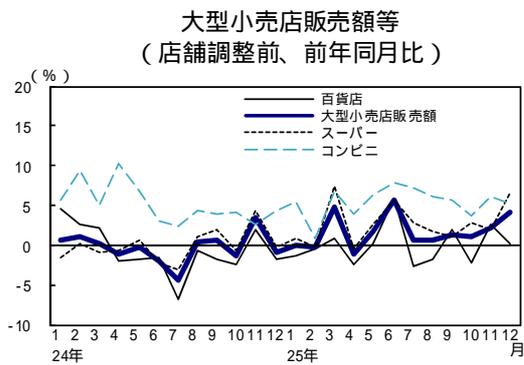
百貨店は、10月は、主力の衣料品の動きが鈍かったこと等から前年を下回った。11、12月は、中旬以降の気温低下で冬物衣料に動きがみられたことや、身の回り品の動きがよかったこと等から前年を上回った。

スーパーは、主力の飲食料品などの動きがよかったことや、家電などに動きがみられたこと等から、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (1月) [家計動向関連 (現状)]

九州地域の家計動向関連DIは、52.7となり前月より0.9ポイント上昇した。

「年末年始の最長9連休のおかげで帰省客が多く、お土産をまとめ買いする方も多かったため売上が伸びた (その他小売の動向を把握できる者 [土産卸売])」など、「やや良くなっている」とする回答が増加した。



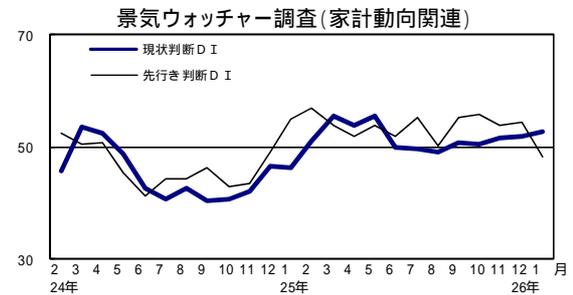
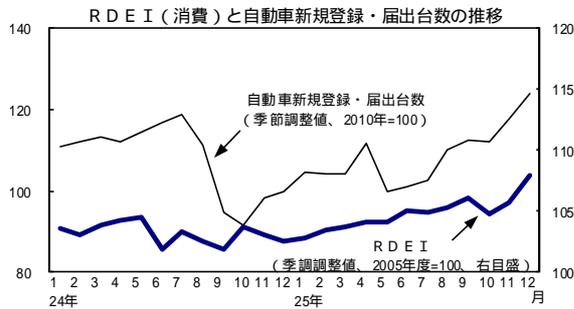
	25年10-12月	25年10月	11月	12月
RDEI (消費*1)	0.6	1.3	0.9	2.1
大型小売店 (*2)	2.7	1.1	2.2	4.1
百貨店 (*2)	0.3	2.1	2.7	0.2
スーパー (*2)	4.0	2.9	1.9	6.6
コンビニ (*2)	5.0	3.8	6.1	5.3
乗用車 (*3)	21.1	20.9	17.1	25.7
(季節調整値) (*3)	8.7	0.4	4.9	5.4

(備考) 1. 季節調整前前期(月)比 (%)

2. 九州・沖縄地区、店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

コンビニは、平成25年1月以降は九州のみの数値

3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比 (%))



(2) 住宅建設は増加している。

分譲が前年を下回ったものの、持家、貸家が前年を上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は25年度累計で見ると前年度を上回っている。

